

中央家畜衛生広報

福島県中央家畜保健衛生所

〒963-6311 石川郡玉川村大字岩法寺字新屋敷114-12

TEL 0247-57-6131 FAX 0247-57-6144

E-mail kaho.lhs08@pref.fukushima.lg.jp



令和6年11月号

牛のサルモネラ症に注意！

管内で牛サルモネラ症が発生しました。発生概要は以下のとおりです。

発生家畜：子牛

原因菌：非定型 *Salmonella Typhimurium* (血清型 4:i:-)

症状：軟便、下痢、哺乳欲低下、死亡

対応：同居牛の糞便検査、環境検査、牛舎消毒、ワクチン接種

サルモネラは野生動物や保菌畜の導入により農場内に侵入します。感染した動物は発症・回復後あるいは未発症のまま保菌牛となり、農場内で感染を広がり常在化しやすくなります。牛が死亡してしまうほか、治療費や投薬に伴う出荷停止など損害が大きく、一度発生してしまうと収束まで長い期間を要し、経営上の問題となります。まずは農場内に侵入させないことが最も重要です。野生動物の侵入対策、畜舎専用長靴の利用や定期的な消毒、導入畜の隔離と健康観察を実施してください。

治療に際しては、近年、多数の薬剤に耐性をもつサルモネラも認められているため、薬剤感受性を確認し効果のある薬剤を選択することも重要です。

牛サルモネラ症は子牛及び成牛で発生します。また、サルモネラ菌は血清型や宿主の年齢によって異なる症状を示すことがあります。毎日健康観察し、以下のような症状があれば獣医師または家畜保健衛生所に相談してください。

子牛の症状

元気消失、食欲不振、発熱、下痢（泥状～水様性、悪臭、血便）

急性例では症状なく突然死することがある

肺炎や関節の腫れを伴うことがある

成牛の症状

元気消失、食欲不振、発熱、下痢（泥状～水様性、悪臭、血便）、乳量低下

*Salmonella Dublin*は流早死産を起こすことがある

国内で高病原性鳥インフルエンザが発生

令和6年10月17日に北海道で今シーズン1例目が確認されて以降、国内で継続して発生しています。今一度、対策の徹底をお願いします。

農場付近の水場は水抜き、忌避テープの設置等により、野鳥を寄せ付けない工夫を。



長靴は洗浄してから消毒の徹底。消毒薬は定期的、または汚れた都度交換。



集卵コンベアなどの開口部の隙間を塞ぐ。普段目の届きにくい屋根裏や入気口も点検し、破損があれば補修。



農場辺縁を含め敷地内の草刈りや枝の剪定を行い、野生動物が隠れる場所を作らない。



車両の消毒の徹底。車体、タイヤ周りや溝の汚れをしっかりと落とす。



洗浄・消毒された衛生的な衣服や長靴を用意。



着替え、履き替えの前後で動線が交差しないよう境界を明確に。

(農林水産省HPより)

飼養家さんの異状を見つけた場合は、速やかに中央家畜保健衛生所に連絡をお願いします



消石灰散布による消毒について

消石灰の消毒効果について

メリット

- ・ 強アルカリによる消毒作用
- ・ 地面に落ちた野鳥糞便等由来のウイルスを時間をかけて死滅させる（待ち受け消毒）。
- ・ 野生動物の忌避効果、足跡等の痕跡がを見つけやすい



デメリット



- ・ 通行車両のタイヤや歩行者の長靴など、接触時間が短いものの消毒には不向き。
- ・ 風雨や空気中のCO₂によりpHが低下し消毒効果が低減するため定期的な散布が必要

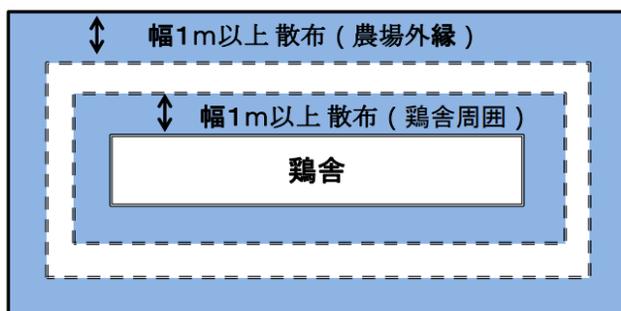
散布方法について

- ・ 鶏舎周辺の不要物を整頓
- ・ 農場敷地の外縁部に散布するほか、開放型鶏舎及びセミウィンドレス鶏舎では鶏舎の周囲、ウィンドレス鶏舎では出入り口周囲に幅1m以上散布
- ・ 散布量の目安は1m²あたり1.0kg（1袋で幅1m、長さ20mの石灰帯）
- ・ 散布作業時にはマスクや手袋、ゴーグルを着用しましょう。



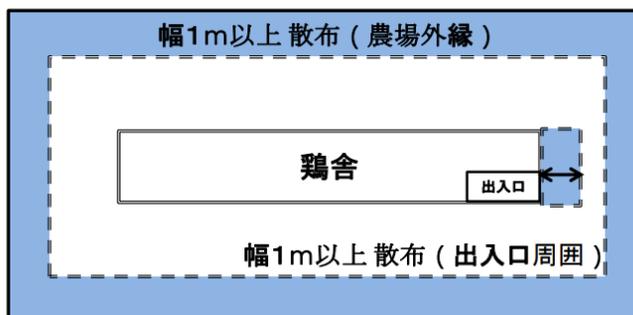
高病原性鳥インフルエンザを予防するため、散布方法を見直してみましょう！

開放鶏舎及び、セミウィンドレス鶏舎
各鶏舎周囲及び農場外縁部(幅1m以上)に散布



衛生管理区域外

ウィンドレス鶏舎
鶏舎出入口周囲及び農場外縁部(幅1m以上)に散布



衛生管理区域外

11月は薬剤耐性対策推進月間です

薬剤耐性菌って？

薬剤耐性菌とは、「抗菌剤が効かない細菌」です。薬剤耐性菌は、抗菌剤の使いすぎなどにより増加し、人や動物の治療が困難になります。



薬剤耐性問題と畜産との関わりは？

抗菌剤は、畜産分野でも、動物用医薬品や飼料添加物として使用されています。

家畜への抗菌剤の使用により増加した薬剤耐性菌が、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して、人の感染症の治療を困難にすることが懸念されます。

薬剤耐性対策ってどうすればいいの？

→次の4つのポイントに取り組んで、
抗菌剤の“慎重使用”を徹底することが重要です。

感染症を予防する

施設内の洗浄・消毒の徹底、十分な飼養スペースの確保、適切な栄養管理等により、感染症を予防しましょう。



家畜の状態を的確に把握する



家畜の異変に素早く気付けるように、毎日、飼育する家畜の健康観察を行い、家畜の状態を的確に把握しましょう。

獣医師に伝える

獣医師が状況を把握し、診断できるよう経過、措置の状況、過去の感染症の発生等の情報を獣医師に伝えましょう。



抗菌剤を正しく使用する

抗菌剤は獣医師からの指示に基づき、用法・用量、使用禁止期間等を守って正しく使用しましょう。

